

次なる夢は日本一

仙台六大学野球春季 仙台大優勝

仙台六大学野球春季リーグ第6節第2日の18日、仙台大が東北学院大を9-4で破り、勝ち点を5として2季ぶり4度目の優勝を決めた。エースナンバーの18を背負い、チームをけん引した右腕の熊原健人投手(4年)もベンチで喜びを爆発させた。

(12面に関連記事)

エース熊原選手意欲

「優勝したチームの力になってうれしい」。今季は第5節の東北福祉大戦までに、4試合連続完封の快投。17日の学院大1回戦こそ七回途中3失点で降板したが、5戦4勝で42イニング $\frac{2}{3}$ 、575球を投げ、チームを春2連覇に導く獅子奮迅の働きを見せた。

エリート街道とは無縁だった。角田市出身、自宅から柴田町の柴田高まで片道約5 $\frac{1}{2}$ キロを自転車通った宮城っ子。背番号1をつけた3年生夏の

々「150 $\frac{1}{2}$ の球を投げたい」と話していた。縁に恵まれ、右腕の野球人生は開けた。

仙台大では2年生まで思うような結果が出せなかったものの、3年生の昨春にフォーラムを、左足を後方に引く独特のセットポジションにして才能が開いた。

エース格として福祉大、学院大とのリーグ史上初のプレーオフを制してチームを67季ぶりの優勝に導き、続く全日本大学選手権では8強入りに

貢献。仙台大初の大学日本代表に選出され、国際大会に出場するまで急成長。高校で最速141 $\frac{1}{2}$ だった球速も今は152 $\frac{1}{2}$ まで伸びた。高校時代の夢はかなえた。

利府高時代、夏の宮城大会で柴田高を破った学院大の小野智大選手(3年)は「高校でも速かったけど、大学で球がぐんと速くなった。対戦するのはわくわくする」という。平塚監督は「期待はしていたが、これほどの投手になるとは」と教え子の努力をたたえる。

2年連続の出場となる全日本大学選手権。仙台大は仙台六大学代表として来月8日、東京ドームで九産大(福岡六大学)と対戦する。「悔しい思いをしないよう、日本一を目指す」。次なる夢を追う背番号18のラストイヤーは始まったばかりだ。

大学3年で才能花開く

宮城大会は利府高に3回戦敗退し「どこからも誘いはなかった」。卒業後は実家の神社を継ぐため神職養成所に進む予定だったが、大会を視察した仙台大の森本吉謙監督(40)の目に留まった。

森本監督は「腕の振り、直球の球筋が良かった」と振り返る。野球を断念することを惜しんだ柴田高の平塚誠監督(42)が仙台大OBだったことも進学を後押しした。「何より野球が大好きな努力家。常



2季ぶり4度目の優勝を果たした仙台大の熊原投手(右)。今季4勝を挙げ、チームをけん引した18日、東北福祉大球場